

# 目指すのは同業者が見て美しい仕上がり—— 塗装のプロとして妥協なき仕事を追求する

## 株式会社 北川塗装

京都府京都市山科区西野山中臣町 185 番地の 1



『根本建設工業(株)』の山下勇樹工事部長(社長の右隣)を交えて



代表取締役社長 北川 忠

×

ゲスト 大鳴戸親方



建築塗装全般を手掛ける『北川塗装』。年齢層が低く、若手が腕を磨く少数精鋭企業だ。同社を牽引する北川社長が目指すのは、プロが見て美しい仕事。妥協を許さない仕事ぶりはメーカーからの信頼も獲得している。本日は、大鳴戸親方が同社を訪問。社長にお話を伺った。

——早速ですが、北川社長の歩みから。

父が左官屋だったもので、私も以前は左官の仕事に就いていました。その中で、もっと別の分野にも目を向けて自分の引き出しを増やしたいと考えるようになり、興味を持ったのが塗装業だったんです。塗装業は、新築のみならず、リフォーム、修繕など様々な局面で必要とされるのでニーズが高いことも良かったですね。そして、知り合いの塗装屋から誘われて、30歳の時にそちらに転職。ある程度、自分の技術力に自信を持てるようになり、お世話になった親方にも恩返しができたかなと感じるようになったところ、独立への想いが芽生えました。親方に独立について相談したら、「応援するよ」と。その言葉に背中を押されて、36歳で独立を果たしたんです。

——独立されてみて、いかがですか。

最初の1年は、仕事がなく知り合いの塗装屋の現場に応援に入ることがほとんどでしたから、つらかったです。でも、独立した以上、後戻りするわけにはいきません。そうして耐え凌ぐうち、徐々に仕事が入ってくるようになって、法人化

もしました。

——今は、職人さんもいらっしゃいます。年齢層が若いですね。若手が不足している今、珍しいように思います。

職人になりたいという子が減っている今だからこそ、若手を主体に動かたいですし、業界からも若手は重宝されます。先々のことを考えると、若手がいると事業継続の原動力になりますから心強いですね。

——取引先にしても、安心して付き合えるでしょうね。

それは、確かに言ってもらえますね。3年、5年先にどうなっているか分からない会社を相手にするのはあまりに不安です。若手がいれば、10年、20年と続けられますから強みですね。

——皆さんで、どういったことを心がけて現場に？

塗装は多くの工程の中の一つですが、

最後の工程になることが多く、建築物を仕上げる重要な仕事です。人目にも触れる部分ですから、お客様にお喜びいただけるよう美しさを追求していますね。もっと言えば、塗装屋が見ても美しいと思ってもらえる仕事を心がけています。細部の仕上がり具合は、一般の方が見て分からなくても、プロが見れば分かるもの。同業者から「流石だな」と言われるレベルを目指しています。そのため、現場を任せている現場監督がOKを出しても、私が見て納得できなければ全てやり直し。職人らは厳しいと感じるかもしれませんが、自分たちの糧になっていると思います。そうして徹底していますから、メーカーさんが責任施工となっている仕事が回ってくることもありますね。

——それは、御社の仕事が評価されていることの表れです。今後については？

従業員をさらに増やして、規模を拡大したいです。いつか私が引退しても、次代を担う者たちが当社を継続していける——その土台をつくっておくことが私の仕事だと思いますから。

(取材 / 2016年10月)

### After the Interview

「『職人たちがいるから仕事が成り立っている。厳しいことも言いますが、ついてきてくれる皆には感謝しています』と話された北川社長。現場に出ればとても厳しいそうですが、皆さんにとってはとても勉強になるのではないのでしょうか。御社で腕を磨く若い職人さんたちの今後とても楽しみです」  
大鳴戸親方・談